令和５年度　第１回
天竜川上流 流域治水協議会
資料３－１

天竜川における治水計画について

～天竜川上流河川事務所～

令和６年３月２１日

河川整備基本方針の変更
（R5.12）

河川整備基本方針の見直しについて

◆ 近年の水災害の頻発に加え、今後、気候変動の影響により更に激甚化するとの予測を踏まえ、治水計画を「過去の降雨実績に基づくもの」から「気候変動の影響を考慮したもの」へと見直し。
◆ 天竜川水系では河川整備計画の上位計画である河川整備基本方針を令和5年12月に変更しました。

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

いのちとくらしをまもる
防　災　減　災

令和5年12月22日
水管理・国土保全局河川計画課

気候変動を考慮して天竜川、九頭竜川、吉井川、大野川及び小丸川水系の長期計画を変更しました

～流域治水の観点も踏まえた河川整備基本方針の見直し～

近年の水災害の頻発に加え、今後、気候変動の影響により更に激甚化するとの予測を踏まえ、治水計画を「過去の降雨実績に基づくもの」から「気候変動の影響を考慮したもの」へと見直し、抜本的な治水対策を推進することとしています。

このたび、天竜川水系、九頭竜川水系、吉井川水系、大野川水系及び小丸川水系の河川整備基本方針について、気候変動の影響による将来の降雨量の増大を考慮するとともに、流域治水の観点も踏まえたものに見直しを行いました。

引き続き各水系における河川整備基本方針の見直しを進めてまいります。

＜河川整備基本方針変更の主なポイント＞

- 気候変動の影響による洪水外力増大に対し、長期的な河川整備の目標流量である洪水の規模（基本高水）を変更しています。
- この基本高水に対応するため、既存ダムの最大限活用と新たな洪水調節施設等の整備、動植物の生息・生育環境の保全・創出に配慮した河道掘削や引堤等を実施することとします。
- 加えて、基本高水を超える規模の洪水や整備途上の段階での洪水被害を軽減するため、流域治水の取組を推進する方向性として、田んぼ貯留の実施に向けた取組、内水被害の頻発を踏まえ流域市町による水害リスクを考慮した居住誘導等の取組を推進することも提示しています。

＜関係資料の掲載先について（国土交通省ウェブページ）＞

・「天竜川、九頭竜川、吉井川、大野川及び小丸川水系河川整備基本方針」の本文
https://www.mlit.go.jp/river/basic_info/jigyo_keikaku/gaiyou/seibi/index.html#map
・社会資本整備審議会での審議経過
https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/shaseishin/kasenbunkakai/shouiinkai/kihonhoushin/index.html

【問い合わせ先】水管理・国土保全局　河川計画課　河川計画調整室
課長補佐　　梯　滋郎　　（内線:35352）
主任　　岡安　龍一　　（内線:35374）
代表:03(5253)8111　直通:03(5253)8445

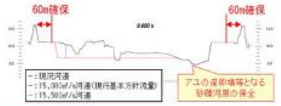
気候変動を踏まえた「天竜川水系河川整備基本方針」変更の概要　天竜川水系

○ 長期的な河川整備の目標となる洪水の規模（基本高水）を上流の基準地点天竜峡において5,700m³/sから5,900m³/sに、下流の基準地点鹿島では19,000m³/sから19,900m³/sに変更し、この基本高水の流量を河道と洪水調節施設等に配分。
○ 気候変動の影響による洪水外力増大に対し、流域治水の視点から流域全体で既存施設の有効活用をはじめ、支川を含む流域全体の貯留・遊水機能を確認し、河道の流下能力ネック部における環境・利用も踏まえた河道の流下能力の検討を行い、河道と既設ダムの有効活用や新たな洪水調節施設等により対応可能であることを確認。
○ 天竜川の流域特性を踏まえ、田んぼ貯留の実施に向けた取組、民間企業との連携推進や家庭用雨水タンクによる雨水貯留機能の向上等、流域治水を推進する方向性についても提示。

位置図

河道と洪水調節施設等の配分流量

河道配分



○ 鹿島地点下流区間においては、アユの産卵場等となる砂礫河原の保全、高水敷利用を考慮等をした上で、一部の区間で河道掘削（低水路拡幅等）をすることにより、15,500m³/sの流下可能な河道断面の確保が可能。

既存施設の有効活用等

○ 天竜川流域には、既存ダム15基（直轄3基、補助4基、利水8基）と既存水門1基が存在。
○ 将来的な降雨予測精度の向上を踏まえ、「既存ダムの最大限活用」と新たな洪水調節施設等により、基準地点天竜峡の基本高水のピーク流量5,900m³/sのうち、1,400m³/sの洪水調節を行い、河道への配分流量4,500m³/sまでの低減が可能であることを確認。
○ 同様に、基準地点鹿島の基本高水のピーク流量19,900m³/sのうち、4,400m³/sの洪水調節を行い、河道への配分流量15,500m³/sまでの低減が可能であることを確認。

流域治水の推進

田んぼ貯留実証実験（菊川の事例）

○ 効果等の情報を流域自治体等に共有し、天竜川流域における「田んぼダム」の取組を拡大
○ 流域内のいくつかの自治体では、雨水流出抑制促進を図るために雨水貯留タンクの製品購入費用に対して補助実施

河道と洪水調節施設等の設定の考え方

【上流域】既存ダムの洪水調節機能の最大限の活用や新たな洪水調節施設の可能性等について本・支川も含めて、貯留・遊水機能の確保の可能性を検討

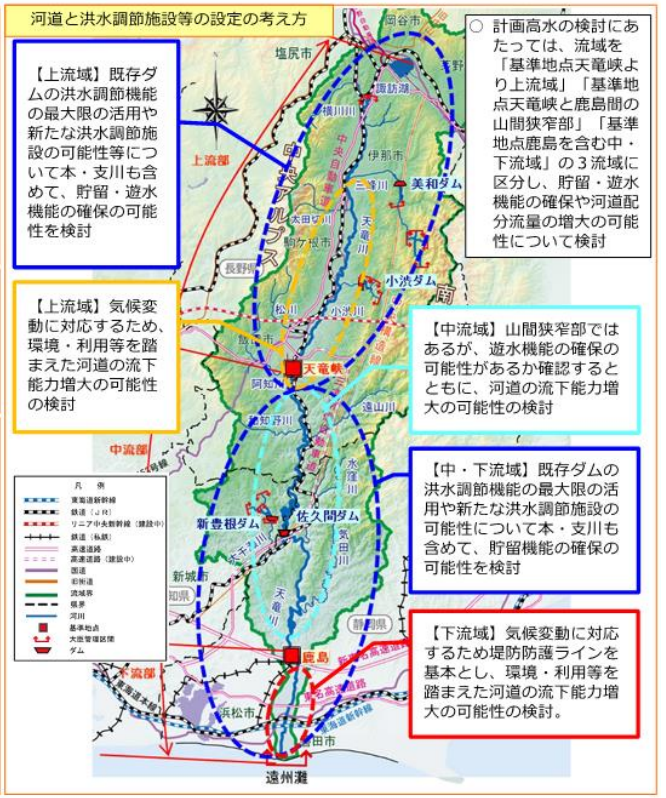
【上流域】気候変動に対応するため、環境・利用等を踏まえた河道の流下能力増大の可能性の検討

○ 計画高水の検討にあたっては、流域を「基準地点天竜峡より上流域」「基準地点天竜峡と鹿島間の山間狭窄部」「基準地点鹿島を含む中・下流域」の３流域に区分し、貯留・遊水機能の確保や河道配分流量の増大の可能性について検討

【中流域】山間狭窄部ではあるが、遊水機能の確保の可能性があるか確認するとともに、河道の流下能力増大の可能性の検討

【中・下流域】既存ダムの洪水調節機能の最大限の活用や新たな洪水調節施設の可能性について本・支川も含めて、貯留機能の確保の可能性を検討

【下流域】気候変動に対応するため堤防防護ラインを基本とし、環境・利用等を踏まえた河道の流下能力増大の可能性の検討。



河川整備計画変更案の提示
（R5.12）

第6回（令和5年度　第1回）天竜川水系流域委員会を開催

開催日時：令和5年12月18日（月）　10:00～12:00 【対面開催　WEB会議方式併用】
開催場所：TKPガーデンシティPREMIUM名古屋新幹線口 バンケットホール3A

出席者
委員18名（WEB併用）
国土交通省　中部地方整備局
- **浜松河川国道事務所**
- **天竜川上流河川事務所**
- **天竜川ダム統合管理事務所**
- **三峰川総合開発工事事務所**

議事内容
- 規約改定について
- 前回の指摘とその対応
- 天竜川水系河川整備計画の進捗状況と点検

その他
- 河川整備基本方針の改定について
- 「河川整備計画の目標」の変更について
- 今後の流域委員会開催予定

辻本委員長

吉田事務所長

名古屋会場の様子

事務所会場の様子

現在の河川整備計画の進捗状況と点検結果を報告し、了承された。
また、気候変動への対応を踏まえた「河川整備計画等の目標」の変更（案）を提示した。

河川整備計画の変更に向けて
(今後の流れ)

河川整備計画の変更に向けて（今後の流れ）

河川整備計画の変更手続き

令和5年12月18日

河川整備計画の変更目標　公表

令和5年度　第1回流域委員会

天竜川上流　流域治水協議会

河川整備計画　変更原案（本文・付図）公表

関係住民　意見聴取

（約1か月）

河川整備計画　変更案（本文・付図）公表

関係省庁協議

関係知事意見聴取

天竜川水系河川整備計画　変更

※上記スケジュールは、今後の検討・調整等により変更となる場合があります。